

内陸避難者、和やか交流

奥州の奉仕
団体が催し



震災から7度目の春を迎え、陸前高田市広田町の住民と交流する内陸避難者

奥州市のボランティア団体「奥州♡絆の会」(渡辺明美会長)は18日、同市水沢区中上野町の駒形神社龍昇殿で第6回交流会「3・11を忘れない」を開いた。同市など内陸で暮らす東日本大震災の被災者のほか、陸前高田市広田町の住民23人が招待を受け参加。互いに余興を披露し、和やかな

ひとときを過ごした。ボランティアを含む65人が参加。近くの水沢公園で見頃を迎えた桜を楽しんだ後、食事を囲んで交流を深めた。

余興は大正琴や踊り、カラオケなど盛りだくさん。昨年の交流会に招かれ、同市広田町の郷土芸能「広田御祝い」を披露した保存会メンバーは、今年は「きよしのズンドコ節」を踊って会場を沸かせた。

最後は皆で同市の「高田音頭」を踊り、翌年の再会を誓った。同市の漁業村上力さん(72)は「以前も内陸に招かれたが、この交流会は初めて。顔見知りもいて、元気にやっってるな」と感慨深げだった。